

毎号、研究員をクローズアップして、業務内容や仕事に対する思いをご紹介します。



Vol. 03

城南支所
副主任研究員

湯川 泰之

工学部の化学系学科に学び、機器分析を専門とする。現在、その知識を生かし、主に金属材料などの分析に携わる。趣味は、プランター菜園。

おすすめの場所

PiOの6F



都産技研マスコットキャラクター
チリン®

羽田空港の管制塔や京急線の高架などを一望できます

最初から最後まで、自らが 関わられるからこそ生まれるやりがい

目的や材料に合わせ、 その都度、最適な方法を

城南地域には、表面処理や金属加工関連の企業が数多くあります。そのため、依頼試験や相談で多いのは、製品表面の不良箇所(変色・シミなど)の解析です。城南支所のオージェ分析装置やX線光電子分光分析装置などの表面分析機器を使用して不良箇所を解析しています。

固体表面や界面の持つ特異性に学生の頃から興味があったため、大学では触媒化学の研究室に進みました。当時は、金属薄膜触媒を強誘電体表面に接合し、触媒反応を外部信号で制御するという研究をしていました。そのときの知識や経験を現在の業務に生かしています。

分析は、直接「ものづくり」をするわけではありませんが、製品の品質管理や安全性評価には欠かせません。製品開発に不可欠な基盤技術に関わるこの仕事に、私は自負を持っています。相談に来られるお客さまの中には、分析機器を指定される方もいますが、よくお話

を伺ってみると他の機器の方が適していたというケースもあります。そのため、お客さまから詳しくお話を伺い、依頼の背景や目的などをしっかりと把握することが必要です。

分析には、目的や取り扱う材料がその都度まったく異なるという難しさがあります。最適な分析方法や前処理の方法をその都度選択するのですが、ときには何度も試行錯誤しなくてはならないことも。ようやく分析が終わった後に「最初からこの方法を試しておけばよかった…」などと思うこともあります。もっと多くの経験を積み、よりスムーズに最適な分析を行うことが目標です。

都産技研では、相談対応から依頼試験の実施、お客さまへの報告までの一連の行程を、基本的に一人の担当者が責任を持って行きます。そのため、お客さまの声が直に自分に届きます。私の報告した分析結果が役に立ち、お客さまの抱えていたトラブルが解決したというご連絡をいただけたときには、心からうれしく、やりがいを感じます。

日々コツコツと作業を進めています



休日は乗り物大好きな息子と遊ぶ



お問い合わせ 城南支所 TEL 03-3733-6233